

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ユニット内に掲示され、いつでも確認できるようにしてある。 ・理念に基づいたケアを心掛けている。	「愛」「信頼」「希望」「奉仕」という法人全体の基本理念があり、職員が常に携帯するネームプレート裏にも印刷されており、何時でも振り返ることができケアに活かしている。また、月1回開かれる全員参加のユニット会議でも唱和している。年度末の3月にはユニット毎に次年度4月からの1年の目標を立て利用者支援に当たっている。新型コロナウイルス感染拡大が続いており制約を受けながらの活動が続いている中で、機能低下防止、趣味やレクリエーションの充実など、今までの生活の維持に取り組んでいる。家族へは利用契約時に理念や運営方針について説明しお便りでもその主旨にふれ理解を得るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ禍でなかなか交流は難しいが運営推進会議を通して区長さんや包括・行政の方から意見を聞いている。	運営母体の法人として自治会に加入し会費を納めているため、回覧板も回ってきており地区の行事などの情報を得ることができる。新型コロナの影響で今年度も地区の催しやボランティアの来訪が中止となっている。敷地内に「ひよこ」という法人内保育園があり、同じ法人職員の子どもということもあり園児とは影響なく交流ができており、ハロウィンの際にも来訪し外で利用者との交流している。また、地域の方の参加もある病院祭も新型コロナ禍の中で中止となったため、地元のケーブルテレビで、祭り時の園児との交流を録画していただきテレビで流していただいたという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・ホームページなどで紹介をしてもらったり、病院などにパンフレットを送り、紹介していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、会議を行い、ご家族様・包括支援センター・市役所担当者・当法人の局長・総看護師長よりアドバイスをいただき、取り入れている。	家族代表、自治会長、市高齢者介護課職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員の参加の下、2ヶ月に1回偶数月に実施しており、新型コロナウイルス感染警戒レベルが落ち着いている時には参集しての会議を行い、レベルの高い時には入居者の概要報告、活動報告、職員研修報告、看取りケなどについて書面で報告し意見を頂いている。同時に「身体拘束委員会」もを行い、言葉の拘束等にもふれ、委員に意見や助言を求めている。参集する通常の会議の際には、家族の参加について事前にアンケートを取り無理のない範囲で参加をお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が中心となり、おこなっている。 また、各施設や病院からの、連絡・相談にはしっかり答えて良い協力関係を築けるように努力している。	新型コロナ禍の中、市高齢者介護課からはワクチン接種についての通知があり、また、感染防止のための必要物品についての申し込み書の配布がありホームとして対応している。通常であれば介護相談員も3ヶ月に1回2名で来訪していたが、現状中止となっており、今年度、事前のアンケートが行われ、市全体の介護相談員と受け入れ施設とのWebでの会議が実施された。介護認定更新時には代行申請し、認定調査員の訪問時には新設した面会室で利用者とガラス越しに面談をしていただいている。	

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・安全確保のため、玄関の施錠は行っている。 ・転倒事故防止のため、センサーマットを使用し安全を図っている。 	<p>ベットの柵にカバーを掛け使用することがあり、消費者庁による「ベットの柵事故の注意情報」などを参考に職員間で周知し事故防止に努めている。身体拘束についての研修も配信されるオンライン研修を受け、身体拘束のないケアに取り組んでいる。転倒防止のためセンサーマット利用する方がいるが家族とも協議し理解を得ており、ユニット会議でも解除に向けて検討をしている。外出傾向の方がいるが、できるだけ声がけし、また、見守りをし散歩と一緒に出かけたりしている。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・関連内容の研修または回覧しスタッフに伝えている。 ・スタッフ間で観察しあい、注意しあっている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・制度を利用されている利用者様もおり活用できている。 ・研修で学んだ職員もいるが全員ではない。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者がすべて行っており、十分な説明を行い同意を得ている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・常に耳を傾け反映させるようにしている。 ・苦情があればスタッフに伝え速やかに改善を行うよう努めている。 	<p>希望や要望を伝えられる方が少なくなっているが日々声掛けし希望を聞き、それに沿って生活できるよう支援している。新型コロナ禍の中、家族との面会については「面会室」を設け予約制でガラス越しに実施しており、遠方の家族も含めほぼ1ヶ月に1回ほどの面会があり手を握ったりしている利用者もいるという。メールで連絡を取り、都合を聞き、家族とのオンラインによる面会で子供さんやお孫さんと顔を見ながら話し喜ばれている方いる。字の書ける利用者については本人が、難しい方については職員がコメントを入れ一人ひとりの様子を写真に収めた「アルテミスたより」として2ヶ月に1回家族あてに送っている。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット会議、毎日の申し送り、個人的に意見・相談を聞ける体制をとり職員全員の同意の基反映させている。 	<p>月1回全員参加でユニット会議を開いている。利用者の一人ひとりの状態の確認、接遇・介護についての基礎研修、年度目標の進捗状況や今後の方向付けなどについて話し合っている。管理者も日ごろ現場でケアに携わっていることから職員から随時意見を聞くように努めている。法人により年1回ストレスチェックが行われ、状況に応じて産業医に繋げることもでき、職員のメンタルヘルスにも取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の思いを上層部に上げモチベーションを上げられるよう努めている。 ・やりがい、向上心に結びつくようコミュニケーションを大事にしている。 		

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・パソコン動画により法人内研修をスタッフ全員が行っている。外部研修はオンラインによるものになってきているが、あまりできていないため、増やしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修もオンラインになってしまっているため、交流する機会がない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人、ご家族の要望をお聞きし安心して過ごしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族との面会時、電話連絡時に伺い、支援につなげるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人、ご家族にお話を伺い、必要としている支援を見極め、適切なサービスが行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ひとりひとりの利用者様の状態を把握し、支援が必要とすることを見極め、できる事は手を出さないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時、電話時、アルテミスたより発行時最近の様子を細かくお伝えするよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ感染予防の関係上、なかなかできない現状である。時々ではあるが、友人の面会もある。	新型コロナウイルスの影響により面会が制限されている中、中学や高校の時の友人と電話で話すなど、出来る限り馴染みの関係を継続出来るようにしている。友人からクリスマスカードが来る方がいる。隣接のデイケア利用からホームに入居され継続して利用されていた方もいるが、新型コロナ感染拡大の影響を受けそのデイケアの利用を自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	・食事の着座位置を整えたり、レクリエー ションを声掛けお勧めしたり、みなさんと洗 濯物をたたんだり配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・コロナのため、面会に行くことができず、ご 家族ともつながりは無くなってしまっている。 ・おひとりお誕生日にオンライン面会は行え た。 ・退所後、家族の方からあいに来てくれた方 もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	・会話・生活の様子から把握しご本人の思 いに添えるように心掛けている。 ・目が見えにくい方、耳が聞こえにくい方 には、それに合った対応を行っている。	自らの意思表示を出来る方は少ないが、日頃の様子 から汲み取っている。ユニット会議や申し送りノートで 情報の共有をし、利用者のできること、得意なことにつ いては声掛けし取り組んでいただくようにしている。塗 り絵、計算ドリル、散歩など、日々希望に沿って生活で きるよう支援している。新型コロナ禍の中でも本人から の強い希望があり実家に帰ったり、スーパーに買い物 に出かける方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	・会話の中でお聞きしたり、ご家族からお聞 きしたり、少しでも多く把握できるよう努め ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	・バイタルチェック、生活リズムの把握、日々 の観察を通してスタッフ全員で把握するよう 努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	・ユニット会議の際に意見・ケアについて話 し合い、ケア統一を図っている。現状に即し た介護計画を作成している。	職員は1～2名の利用者を担当しており、月1回のユ ニット会議でモニタリングを全職員が関わり行ってい る。介護計画は基本的には長期1年、短期は6ヶ月で見 直している。状態の変化が見られた時には随時見直し も行っている。見直しの際には利用者・家族からも希望 を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別ケース記録に記載、申し送りノート、 毎日の申し送りで情報を共有し実践・介護 計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・銀行や買い物などの外出、床屋、医療機 関への受診の付き添いなど柔軟に対応して いる。		

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議での市の介護課の方、包括支援センターの方のご意見をお伺いし、支援に役立たせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人、ご家族の希望を尊重している。 ・家族が同行できない時はスタッフが付き添い受診している。	利用前からの主治医が継続出来ることと隣接の病院が協力医になっていることを契約時に説明し希望を聞いている。若干名の方が在宅時の主治医を継続しており受診は家族対応となっており、受診時には看護師でもある管理者から状況報告をしている。隣接の病院を主治医としている方は利用者の状態により、週1回の往診、月1回・2ヶ月に1回・3ヶ月に1回の受診など、一人ひとりに合わせ支援している。また、隣接の病院とは電子カルテにより情報の共有が出来ている。歯科は必要に応じて予約し、付き添いは家族にお願いしている。ホームには管理者も合わせて2人の看護師がおり、医師への連携もスムーズに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・変調があれば看護師に連絡・必要なら当病院、または、他の医療機関への受診へとつないでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・当病院と電子カルテで共有されており、スムーズに情報交換ができる。また、当法人以外の場合ではケースワーカーなどとこまめに連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・看取り介護の同意書にサインしていただき、入所時に施設長より説明を行っている。 ・看取りの方の場合、どのような対応にするか、家人と相談し、それに添えるように一人ひとり対応が違う為、その都度変わる為、みんなで協力して取り組んでいる。	利用契約時に「重度化・終末期ケア対応指針」を基に説明し同意を頂いている。その状態に到った時は、本人・家族・主治医と話し合っ希望に沿えるよう支援している。未だその時期になく、話し合いがこれからという利用者もいる。家族の気持ちの変化もあるため状態の変化に応じて希望を再度確認している。今年度もホームでの看取りが行われ、残り少ない家族との時間や家族との絆を大切に感じ、新型コロナ禍の中ではあるができるだけ面会をしていただき共に過ごしていただくことで悔いのないようにしていただいたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時、マニュアルに従い対応している。 定期的な訓練は行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練は実施されているが職員全員が身につけているかは定かではない。当病院との協力体制は築けている。BCP委員会にてマニュアル作成中。	来年度の施行・実施に向けて法人としてBCP(事業継続計画)を策定中で、隣接の病院と合同で年2回、防災訓練を行っている。地震・火災など、その都度想定している。連絡網についても一斉でメール送信できる体制が整っている。隣接の病院で備蓄も十分用意され、井戸水もあり、非常食も年2回入れ替えられ、試食しながら味や形態などが利用者に合わせているか確認している。避難に際してのカップやヘルメットなども用意し、防災頭巾の導入についても検討している。災害時、法人として地元住民の受け入れも想定し準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人格を尊重した対応、プライバシー、守秘義務を守り、話し方には注意を払っている。	法令遵守・プライバシー保護の研修については本年度もリモートで行われている。男性職員もおり夜勤もあるが、利用者と馴染みの関係作りができており利用者へ了解を得てトイレ介助や入浴介助も行っている。利用者への声掛けは、希望をお聞きし苗字や名前に「さん」を付けお呼びしている。声かけについてもプライバシーに配慮し大きな声ではなく近くに寄り添いさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご本人の意思、意向を尊重し、希望に添うように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・施設の生活の流れで過ごしていただいているが、基本本人の意思に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご自分でできる方は自分で、できない方は職員の方でお手伝いさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・季節の食材で調理したり、お誕生日には食べたいものをお聞きし作ってお出ししたり、準備を手伝っていただいたりしている。 ・食べにくい物は他の利用者さんと違う物で対応している。	自力で摂取出来る方が大半で、全介助の方が若干名となっている。一口サイズの刻みやミキサー食など一人ひとりに合わせて対応している。献立は法人の栄養士が作成し材料も届けられ、月1回のお好み献立や行事食もあり利用者も楽しみにしている。新型コロナ禍の中、職員が少ない時は隣接する病院の給食を転用することもある。ホームでミニトマト、ナス、キュウリ、サツマイモ、花オクラなどの夏野菜を栽培したり、ニラせんべい、おはぎなども手作りしている。食事や水分摂取量は毎日記録し、補助食品で補うこともある。茶碗ふき・テーブル拭きなど、利用者が出来る範囲でそれぞれの出番づくりがされている。	

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎食、摂取量、水分量を確認し、記入、個別ケース記録に記載している。摂取量が足りなければ補助食品で補う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後歯磨きを実施している。義歯は毎晩ポリドントを使用、清潔保持を行っている。状態によっては歯科受診をみてもらう。使用できる人は薬用マウスウォッシュを使用し予防対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・時間で誘導を行っている。ひとりひとりの排泄状態に合わせてパットは日中夜間の状態に適したものを使用している。	布パットで自立している方が半数ほどおり、後の方はリハビリパットやパット、オムツを使用している。見守りや一部介助、全介助と一人ひとりに合わせ定時誘導し出来る限りトイレで排泄することを大切に支援している。排泄チェック表により把握しており、便秘の場合は下剤を服用したり、乳製品・水分の摂取、などで対応している。ポータブルトイレについては若干名の方が使用しており、夜間のみの方と日中も含め常時使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日、排泄表の記入、水分摂取、腹部マッサージ、運動で働きかけている。 ・就寝前に下剤服用にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・施設の方でその方の入浴する曜日は決めてしまっている。ただし、本人に意思は確認し時間調整している。	基本的に週2回入浴としている。午後の時間帯を希望する方もおりそれに応じている。入浴に際し配慮が必要な利用者があり、看護師がバイタルチェックの結果から入浴の可否を判断している。自立されている方は若干名で、一部介助の方が半数強、三分の一弱の方が全介助という状態である。職員二人での介助も状態に応じ行っている。入浴を拒む方には時間を変えたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ご本人の意思で休息している。室温、照明も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の目的、副作用、用法、用量は理解不足である。確実な服薬、誤薬を防ぐためにチェック、またはWチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・テーブル拭き、洗濯干し、たたみ、計算ドリル、色塗り、縫物などその方に合った作業を行っていただいている。		

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・施設周辺への散歩はできる限り行かれるよう心掛けている。 ・みんなで外出を行いたいのがコロナのため、妨げられているも密をさけ、外出は回数は少ないが行っている。 	隣接の病院、隣接の施設、グラウンド、テニスコート、保育園や駐車場などが一ヶ所に集まっており、広い敷地内を散歩することがある。月々外出計画を立てているが新型コロナウイルスの影響で地区の行事も殆ど中止となっている。例年、上田城跡公園の菊花展が今年度も中止となったためそこに出演している地域の住民が自宅に呼んでくださり今年も見学をした。敷地のグラウンドには桜並木があり、居ながらにして花見・紅葉を楽しむことが出来る。外出が制限されている中、少人数で車に分乗し、空いている曜日や時間帯に花桃、ツツジ、バラ園の見学に出掛けるなど利用者のストレスにも配慮し支援している。ホームの前を法人の保育園に通う子どもが散歩する姿を見ることができ利用者も和んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・2名、自己管理されている。他の方は法人管理カードでの対応の為、現金は所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話、公衆電話で電話をしたり、手紙を書いた入りしている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・中庭に花を植えたり、観葉植物を置いたりし、目で楽しんでいただいている。 ・光、温度、湿度、臭いには十分な配慮を行っている。 	今年度からホームの風防室の中に「面会室」が設けられ、新型コロナ禍の中で利用者と家族の面会に使用しており、家族から好評を頂いている。玄関と事務室及び交流スペースを挟んで各ユニットがあり、ユニット同士がウッドデッキでも繋がっており自由に行き来出来る。各ユニットには中庭がありホーム内も明るくなっている。リビングも広く食事用テーブル以外にソファが用意され自由に過ごせるようになっている。床下エアコンが設置されており全体に暖かくなっている。トイレは各ユニットに車いす用、一般用、男性用も設置されている。浴室も広く浴室暖房、床下エアコンでヒートショックに対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファ、ダイニングテーブルでその方の好きな場所できろいである。		

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・個々にテレビ、写真、仏壇を置きその方らしい自室になっている。	床下エアコンで全体に暖かくなっている。居室の窓も大きく、居住スペースとの中間に障子の仕切りがあり和風の雰囲気醸し出されている。居室にはベット・箆箭・クローゼット・机も設置されている。持ち込みは自由になっており、冷蔵庫、電子レンジなどを持ち込んでいる方もおり、お気に入りの植木や連れ添った伴侶の写真、家族の写真なども飾られ居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・フラットの床、手すりなど安全に生活が送れるよう配慮されている。		